

令和6年度（2024年度） 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	93	学校名	茨城県立伊奈高等学校					課程	全日制	学校長名	斉藤 辰彦					
教頭名	佐野 正道					事務（室）長名					石引 浩					
教職員数	教諭	39	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	5	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	56
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	139	101	140	91	126	97			405	289	18				

2 目指す学校像

すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を、地域や家庭と連携して提供する学校
① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる
② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる
③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる
④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） 3つの心（校訓）と7つの力を核として、地域貢献の意識を持ち行動するために主体的かつ粘り強く学習する生徒の育成
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） すべての生徒が本校の育成目標とする資質・能力を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を、地域や家庭と連携して実践する。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	（短期的目標） 自ら課題を設定し、他者と協働して解決に果敢に挑戦し、より良い社会を実現しようとする豊かな人間性と高い志を持つ者

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	与えられた課題に取り組む真面目さはあるが、家庭学習等の自主的な学習について、不十分な生徒が見受けられる。	①観点別学習評価を充実させ、生徒に付けさせたい力を中心とする授業実践と評価のための手法を確立することにより、生徒の主体的な学習活動を促す。

		②学習における生徒の困りを把握し、個々に応じた支援を提供する。
進路指導	進路目標の設定が遅く、進路決定のために必要な知識や情報が足りないために努力が不足する生徒が見受けられる。	希望進路意識高揚のための施策について、3年間を見据えて効果的に行うための精選と手法の検討を行う。
生徒指導	ほとんどの生徒が常識的で落ち着いた生活をしているが、規範意識や他者との共生についてまだ指導が必要である。また、交通事故防止やスマートフォンの使用法への対応にも継続した指導が必要である。	全職員が共通認識をもち、基本的な生活・心の教育をどのように充実させるか。また交通ルールの遵守や情報の共有化を図るとともに、安全教育の充実を推し進める。
働き方改革	業務の在り方、見直しの機会があまりなく、累積的に業務が増えている。	教職員一人一人が、自らの業務についてより効果的に行うことができないか、業務の適正化の観点から適宜見直す。

5 中期的目標

<p>(1) 観点別学習評価の確立に取り組み、生徒が主体的・対話的で深い学びを実現できる授業を実現するとともに、学力を向上させる。</p> <p>(2) 行事などを通して自己の在り方生き方を考えるために、面談を始めとする進路行事を効果的に入れる。</p> <p>(3) 特別活動、部活動等への参加を奨励し、達成感を感じさせるとともに、たくましい心と体を育てる。</p> <p>(4) 発達障害などへの対応やいじめの予防などに積極的に取り組み、安心・安全な学校をつくる。</p> <p>(5) 学校・家庭・地域社会の三者が一体となって生徒の成長を支援する地域に開かれた学校づくりを目指す。</p> <p>(6) スクールポリシー及びグランドデザインに基づいた持続可能な学校指導・運営体制の構築を図る。</p>

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
自立した学習者を育む授業改善	(1) 生徒対象の授業アンケート(年2回)を実施し、授業満足度の項目において肯定的評価80%以上(KPI) (2) 授業において、ICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を効果的に組み合わせ、学習の場における生徒の自立性、内発性を高める工夫をおこなうことにより、高い学習意欲を持って学びに向かう「自立した学習者」の育成をはかる。
進路意識の涵養と学力向上	(3) 地域社会や異校種との連携によるキャリア教育を充実させ、早期の進路意識確立に努める。 (4) シラバスの有効活用により授業内容の充実と計画的指導を実践し、生徒の自学自習の習慣付けを促す。 (5) フィールドワークを含む体系的な探究学習を充実させ、課題発見能力やその解決に向けた論理力を育む。 (6) 教員研修を積極的に推奨し、観点別学習評価に基づき、授業力向上に努める。特に目標の提示と振り返りのを1時間の授業内で行う。
安心・安全な学校の実現	(7) 教員研修を積極的に推奨し、発達障害等の知識を身につけたり、組織的で適切な対応ができるようにする。 (8) 面談やスクールカウンセラーを有効に活用し、相談体制を強化して予防に努めるとともに、いじめなどの諸問題の早期発見や適切な初期対応、チーム対応に努める。 (9) 各種指導を通して生徒の安全の見取りの実施及び基本的生活習慣の涵養に努める。
人間関係力の向上	(10) 学校行事や部活動・委員会活動等を活性化し、生徒の能力を生かした活力ある学校づくりを推進する。 (11) 特別活動や部活動を通して自主的精神を養い、行動力を培うとともに、より良い人間関係の形成を図る。 (12) 社会貢献活動やインターンシップ等の体験活動の充実を図り、社会的視野を携えた豊かな心を育成する。 (13) キャリアパスポートを活用することで、生徒自身が自らの学びを見通したり、振り返ることで主体的に学びに向かう力を育む。 (14) 18歳成人をふまえ、様々な機会を捉えて成年教育の充実を図り、公民的資質を育む。
働き方改革	(15) 学校の重点目標や経営方針を共有化し、その目標達成のために業務の適正化を図る。